第2回　みんなで育ちあう保育創造の為にⅡ
～保育者の悩み･質問から学ぶ～

講師　岡村　由紀子氏・金子　明子氏

Ⅰ　コミュニケーション・ひととのつながり

１　アタッチメント（愛着）

そもそもあかちゃんは、「ひとが好き」な状態で生まれてきます。ですから人の声がしたり、人の顔が見えたりすると、そちらを向いたり目で追ったりします。これを「社会的知覚」といいます。

また、あかちゃんは愛着形成の前段階となる「他者とつながろう」とする思いももっています。自分で動けないので、不快な時は泣いて大人を呼び、何とかしてもらおうとするのです。そのような状態を繰り返しながら、徐々に「特定の人」がわかるようになり、「特定の人」とくっつく時期に入ります。この特定の人にくっついて、不安や恐怖といったネガティブな感情を調整しようとすることを「アタッチメント（愛着）」と呼びます。アタッチメントが安定して形成されると、人と繋がるときの大事な感覚である基本的信頼感（人を根拠なく信頼できる感覚）が生まれます。アタッチメントの形成がしっかりできるというのは、誰かにべったりくっついて甘えることではなく、逆に、困ったことや危機的状況を何とかしようと、自ら発信し誰かに助けを求め、感情を立て直すことができることであり、自信や自己効力感に繋がるのです。更に自分の気持ちを受け止めてもらう多くの経験がベースにあることで、他者の気持ちを理解し、思いやる（共感性）ことができるようにもなるのです。つまり、人とかかわるときに大切な要素は、アタッチメント（愛着）の形成を通して育まれるのです。

２　コミュニケーション

コミュニケーションは、物を挟んで子どもと相手がやり取りをする三項関係の成立から、子どもが気付いたものを指差し、相手にも気づかせ同じものを見る共同注意の段階へと発達します。更に、はいはいをしていた子どもが、初めて見るものや場所に来ると自然に立ち止まり、アタッチメントの対象である大人を探し、「いってもいい？」「触ってもいい？」と了解を求めるように顔や視線を合わせ、その表情を参考にする「社会的参照」の段階へと進みます。大好きな人の視線を手掛かりに世界を広げていくのです。

現在、保育中もマスクを着用しています。マスクをした顔は、思いのほか隠れている部分が多く、手掛かりにしようと子どもが視線を送っても、参考にすることが難しくなります。マスクをした顔でどうやって視線を送ろうか、日々保育の中でもやもやした気持ちになります。

Ⅱ　自我の発達

「自分」というものがわかってくるのは 10 か月くらいからです。それ以前は、自他が未分化で曖昧なところがあるので、誰かが泣いていると自分まで泣きたくなったり、ママが緊張していると自分もくずくず言い出したりするなど、感情伝染が起こります。10 か月くらいになると次第に、自分とママが物理的に違うことがわかり、歩き始めると物理的にママから離れることができるので、行ったり来たりしながら自他の違いを確認しています。

《1 歳児》保護者からの相談が多い「いやいや期」は、発達においてとても大切な時期です。自己主張や所有意識、仲間意識などがみられ、自我の芽生えの時期だからです。自分を出して自立に向かう第一歩と言えます。

《2 歳児》自立が進み、身の回りのことを「ジブン

でする！」という気持ちがとても高まる、自我の拡大期になります。反面、「見守っていてほしい」時期でもあり、「自分でしたい」自己主張と「見守ってほしい」気持ちの間で揺れています。

質問の中に「友達にしつこくなり、テンションが上がると激しくなってしまう」とありました。2歳児は「一緒」がうれしくて、複数の友達と遊ぶ姿が見られるようになってきます。意図や意味があるわけではなく、ノリや雰囲気を楽しむ繋がりができてきて、みんなと一緒にやりたい、一緒の友達にあこがれて自分でやりたい、そんな時期なのです。

《3歳児》ことばによる自己主張をし合うようになる時期で、友達が遊んでいるのを見て、「入れて」「貸して」とことばで言ったり、相手からも「どうぞ」「いやよ」とことばが返ってきたりします。自我が芽生え、自分で決める、たくさん自己主張する中で自分の思いをたっぷり聞いてもらう経験が 4歳児の自己コントロールに繋がっていきます。

《４歳児》たくさん自己主張する中で、思いをたくさん聞いてもらった子は、自分と相手の思いの違いに折り合いをつけられるようになってきます。自分の気持ちや行動を「～だけど・・・する」（例：やりたいけれどちょっと順番を譲ってみる）と調整しようとするのです。大人に言われたから、ではなく「自分で我慢ができる」ことが大事です。

巡回相談では、対象児が複数いて保育者が戸惑っている話を伺います。対象児はもちろんですが、それ以外の児が気になることがあります。例えば、身支度を済ませた子どもたちが、周囲の子や状況に関心を示さず、黙って待っている光景であったり、絵本の読み聞かせを待っていたのに、後から割り込んできた友達に文句も言わず、黙っている場面などです。4歳児のイメージは「おせっかいやき」ですから、友達への関心が高まっているこの時期に、我関せずという姿の方が心配です。「気になる子がたくさんいて何とかしたい」という依頼で訪問させていただくのですが、むしろ「気にならない子」が4歳児の姿として本当にいいのか、という視点でクラスを振り返ることもお勧めします。

《５歳児》５歳児はいろんな視点が持てるようになります。時系列的に振り返り、「ちょっと前はできなかったけれど、できるようになった」と自分の成長を客観的にとらえ始めます。これを自己形成視といいます。いつの自分であっても自信を持って語れることが大事です。

Ⅲ　味覚の発達について

味覚の成長・発達は一生で、期限がありません。私たちもかつては食べられなかったのに、大人になったら食べられるようになったものがあります。味覚が一生発達するための条件としては、①季節の変化に合わせて数多くの食品に出会う　②うまみ調味料が多い食品は、連続して取らない　③周りの大人がおいしそうに食べている姿が目に入る　の３つです。ですから、離乳食の時はまず素材の味に出会うことが大事です。２歳児くらいになったら、おかわりを欲したとき「（苦手な）にんじんさんといつかお友達になれるかもしれないよ。ちょっとだけ食べたらおかわりね」と言って、舌に苦手なものでもちょっとだけのせ、いろんなものに挑戦していくようにします。そうすると年中・年長になったとき、苦手なものでも「お友達になったよ」と一口は食べようとします。そのほかのアイデアとしては、野菜を星型にしたり、苦手なものを細かく刻んだりと、見た目を工夫することです。

「食べなければ遊べないよ」という完食指導は、無理に食べさせることになり、子どもの心を傷つけます。食は自分から楽しく食べることです。味覚の発達は、舌に食品の味を記憶させておく意味で、なめたり、ちょっとだけ食べることが大切です。

Ⅳ　その他

Q1　集団から外れてしまう行動が気になる。次の活動に見通しがつくよう知らせたり、言葉をかけたりしているがうまくいくときといかないときがあり、対応に悩んでいる。　【1歳児】

子どもが集まって一緒のことをやる「集団行動」を乳児がわかってできることは大変難しいことです。乳児にとっては、集団から外れることは当たり前ですし、言葉で体をコントロールできる時期でもありません。1歳児をまとめる場合は、食べ物が効果的です。自己コントロールが本当に確立するのは4歳半ごろです。子どもの見方が年齢とはズレてれていると、保育が苦しくなります。

Q2　一人遊びが好きで集中して遊んでいるが、切り替えが難しい場合の対応について【1歳児】

「集中して遊んでいる」ことは素晴らしいことです。1歳児を言葉で動かすことは難しいので、切り替えをさせたいときには、視覚に訴えることが効果的です。例えばポケットから人形を出したり、給食のデザートを見せたりするのです。給食を目の前にして、「もう給食だから、終わりにしようね。」と言えば切り替えができるようになります。

「一人で遊ぶ」というのは、やりたいことが自分でわかる子、つまり自我が育っている子です。1歳児にとっては、自我の発達の面からも一人で遊ぶことは本来とても大事なことなのです。保育では、みんなで一緒に行動できる子を育てているわけではありません。一人一人の人生を自分の力で歩んでいくことをお手伝いしていく仕事なのです。

年々、保育者が言葉に依拠して子どもを動かしているように感じます。どうしたら子どもの心が切り替わるかを考えたいものです。

Q3　噛みつきが起きた時、噛んだ子、噛まれた子の保護者への伝え方について　【1・2歳児】

まず事実を伝えることです。そしてその時の各々の子どもの気持ちを伝えます。さらに、どのように指導したか対応を話します。最後に、行為の意味を伝えます。「お子さんは愛されて育ってきたから、自我が育ち、自分のしたいことを表現できるのです。でもまだ言葉が育っていないから手が出てしまったんです」といった具合です。言葉を選んできちんと伝えます。保護者理解を進めながら、複数の保育者で対応することも大事です。納得が得られなかったり保護者が感情的になったりする場合には、一度話を預からせてもらうこともよいでしょう。今後どのように関わり、指導をしていくかという方針を伝えることを大切にしています。「困っています」という考えでなく、保護者と「一緒に今の課題を考えていく」という方向を伝えます。

Q4　年齢に関係なく、話をするときにまったく目が合わない子がいる。子どもの視界に入るよう、保育者が動くようにする対応でよいか。

視線を合わせることは、ことばの前段階としてのコミュニケーションとしても大切です。ですから、保育者から根気よく「目を合わせる努力」をする必要があります。ただし、子どもに目と目を合わせ話をしてもらった経験がなければ難しいので、言葉による理解ができてきてから、「先生の目を見てお話ししようね。」と声を掛けます。2歳児ならば保育者の立ち位置を工夫し、目が合うようにするとよいでしょう。人間のコミュニケーションの原点は、目と目を見て話をすることです。子育ては、応答的にキャッチボールしながら話していかないと心には落ちていきません。悩んでいる保護者にも同様です。

Q5　友達に対してしつこくなってしまい、テンションが上がると力の加減がわからず、激しくなってしまう子の対応について【2歳児】

テンションを下げようとするのではなく、テンションが上がっている理由を探ります。思いを探り、心にぴったりの言葉を保育者はかけるのです。すると、子どもは保育者が自分のことをわかってくれた、と思い、テンションは下がりやすいです。どんなに不適切な行為であっても、自分の心にぴったりの言葉に出合うことで、保育者に対する子どもの信頼感が大きくなります。自分のことをわかってくれる保育者の言葉は、子どもに入りやすいです。

Q6　好き嫌いへの対応について（個別メニューによる対応の必要性があるか。どこまで「イヤ」を許してよいか）　【1歳児】

メニューを変える必要はありません。ちょっとだけ食べていたら、いつか食べられるようになります。2 歳児はイメージの世界が膨らんでくる時期です。本来のことばで伝えるのではなく、イメージの世界の言葉で伝えることで、意欲につなげるとよいでしょう。例えば人参を食べさせるために、「お腹の中で人参さんのお父さんとお母さんが待ってるよ」といった具合に、空想の世界で楽しみながら、行動の切り替えを促すのです。

Q7　子ども同士のおもちゃの取り合いへの対応について　【2歳児】

乳児は我慢させることが難しいので、子どもの人数分用意します。自我が芽生える時期ですから、それぞれやりたい遊びを保証することが大切です。また、乳児は長時間同じおもちゃにこだわっていることは少ないので、他のおもちゃを提示すれば気が紛れることもあります。

Q8　指しゃぶりへの対応について

指しゃぶりをする場面を気にします。寝るときであれば、入眠の儀式であり、あまり心配しなくていいです。生活の切り替えのときであれば、指しゃぶりをすることで、ほっとしたり、気持ちをコントロールし、折り合いをつけようとしたりしています。この時は、保育者が「恐かったね」「嫌だったね」など、その子の気持ちを言葉で置き換えるとよいでしょう。一番心配なのは昼間頻繁にする場合です。これは遊びたいけど遊べない場合が多く、もう一度その子と保育者のかかわりや遊びの見直しをします。いずれの場合も原因がどこにあるのかを考え、取り除くよう働きかけます。

Q9　特性のある子が複数いるクラスにおける一斉活動での支援方法について　【4歳児】

個別保育は療育、つまり 1 対 1 で行われるので、絵カードや物を使って子どもと向かい合います。しかし、集団保育は園という場所で、人が集まってくることで生まれるつながりの力を利用しての教育であり、人と人との関係性で子どもが発達していくのです。園にいろいろな子がいるということは、それぞれ表現の仕方が違うということです。個々が違った表現をし合う中で、「このクラスは楽しい」と感じる仲間づくりをすることが大切です。

どの子も楽しい、と感じるためには、まず①嫌なことは嫌と言えること　②友達が嫌なことはしない集団づくりをすることです。すると、子どもは安心でき、居心地がよくなります。集団の質は、困っている誰かがいたら、みんなで対応していけるかどうかです。自分にとって嫌なことは、はっきり「嫌」と言えること、相手に「イヤ」と言われたらどうしたらいいかを話し合える集団が質の高い集団です。

Q10　「友達と一緒」で安心する子どもたちが、主体的に活動できるようにするための援助について　【5歳児】

自分の意見を大切にされた経験が主体性を育てます。ですから、話し合う場面が多くなる 5 歳児に対し、①何をしたいか、②どうしてそう思うのか③ちょっとずつやってみるよう後押しすることをお勧めします。自分の思いが聞き届けられた、という経験が豊かなほど、子どもは主体的になります。

Q11　つまずいたことで子どもの活動が止まってしまう。その時の気持ちの切り替えの方法について　【2歳児】

2 歳児の気持ちの切り替えは大変難しいですが、まずは、つまずいた気持ちに共感することです。「嫌だったね」「見てるよ」と支えを送り、立ち上がっていく姿を応援します。

保育は、もちろん保育者が意図をもって指導計画を立てますが、今の子どもの気持ちを入れて進めていくことが大切です。

第２回　焼津市保育者資質向上研修会
令和２年９月１８日（金）
会場：焼津公民館　大会議室